



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	閉会の挨拶
Author(s)	矢野, 理香
Description	北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言制定記念講演会 閉会式. 2021年12月22日, オンライン.
Relation	(2022). 北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言制定記念講演会記録集 北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
Issue Date	2022-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/85718
Type	lecture
File Information	05Yano.pdf



閉会の挨拶

北海道大学 人材育成本部 ダイバーシティ研究環境推進室室長
室長 矢野 理香

ダイバーシティ研究環境推進室長の矢野です。本講演会にご参加いただいた皆様、本当にありがとうございます。そして、本日も大沢先生、皆様、大変有意義な講演会にさせていただき、ありがとうございます。

本日まで、4回の講演会を行いました。延べ828名の方に参加申し込みをいただいています。このうち学生は191人が申し込みいただき、教職員問わず、学生、そして学内外の方々の関心が高いということがとてもよくわかった結果だと思っています。

開会式で本学の賛金総長が「誰もがマイノリティー、ある種の多様性を持っているのではないか」「ダイバーシティ・インクルージョンは、自分が自分らしく生きられるかどうか大事である」と話し、そして今回の宣言については、北海道大学としては長い歴史の中でのターニングポイントであって、立ち止まりの機会としたいというメッセージを出しました。

今回の4回の講演会、民族、ユニバーサルキャンパスデザイン、セクシュアリティ、そして本日のジェンダーに関しては、この「立ち止まり」の機会において、私たちが考えるための大きな示唆を与えてくれたと思っています。これまでの知見と先生方から出されたデータ、そして講演者の方々の経験に基づく非常に熱い言葉の数々から、私たちがこの対談を通して得たものというのは大変大きいと思っています。また改めて、知識を得ることが、自分自身の聞く耳を持つてさえいけば、アンコンシャスバイアスを払拭することにもなるのだということ、私自身が強く感じています。

第1回目の講演者であるサコ学長からは「北海道大学はこれをファッションで終わらせてはならない」という強いメッセージをいただきました。すべての構成員の尊厳が守られ、一人一人が誇りを持ち、互いを尊重する大学環境を目指すこと、そもそも複雑で多様な人間をそのまま互いに受け入れることは、言葉で言うことは簡単ですが、これを現実どうやっていくかということは全く容易なことではないと私自身も思っています。

今回の講演を通して改めて思いましたが、大学の使命というのは、やはり人材育成、教育の場であると

いうこと、そして世界の課題解決に向けた研究を発信していくこと、そして社会貢献だと思っています。このダイバーシティ・インクルージョンはこれらの基盤になるものです。大学として研究成果を発信していくことはとても重要なことです。しかし、明日の未来をつくり上げていく学生たちにとって「ダイバーシティ」は、大学という場で教育を受け、価値観を育成していくうえで非常に大きなものであると感じました。

本学が試されるのはこれからだと思います。今回の講演会でもご助言があったように、言葉だけではなく、実践、制度、規範を作り上げていくためにも、今まで見えていなかった事柄には、まずは私たちとしては声に寄り添えるような場と機会を作っていく、当事者の方たちの声を聞くことが、最も大事だと改めて思っています。まずは安心して、みんなが声を出していけるような環境を作り上げ、また、共に学び合える場と機会を作っていきたいと思っていますので、どうぞ、これからも皆さんの力をお貸しいただけたらと思っています。その上で、大沢先生から20年遅いという叱咤激励をいただきましたが、課題をしっかりと洗い出してデータを分析し、北大の強みを生かしながら具体化し、北海道大学がダイバーシティを強みとしていけるように、推進室においても一丸となって努力していきたいと思っています。

最後になりますが、本日の講演会及びこれまでの講演会にご参加いただいた皆様、そしてご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。今回の4回の講演会が、ダイバーシティに向けての光につながっていくように、光が本当に遠くまで、そして広く深く広がっていくように、これからも推進していきたいと思っています。

あと10日足らずで2021年が終わります。2022年、が皆様にとりましても良い年になりますようにと願いを込めまして、今回のこの講演会の閉会の辞したいと思います。本日は皆様、本当にありがとうございました。